

# 敷島南小学校 学校関係者評価書

平成31年3月4日(月)

敷島南小学校 学校関係者評価委員会作成

平成30年度 学校関係者評価委員会

実施日：平成31年2月28日(木) 午後4:00～5:30

参加者(回答者)

(学校関係者評価委員)

学校評議員：関 芳雄 松岡栄子 土橋 満 浅原千恵子

P T A会長：秋山佐和子

(学校側：意見・助言拝受)

校長：矢ヶ崎二男 教頭：丸茂和也 教務主任：中山 素

## I 学校側から提案された内容

○自己評価結果及び保護者、児童アンケート結果と今後の方針について

◇推進継続してきた事項及び継続していきたい事項

- ・教職員の積極的な姿勢による、充実した教育活動の取り組み
- ・児童の学力向上につながる授業実践
- ・友達と仲良くし、進んで学習し、学校生活を楽しむ児童の姿
- ・児童の規範意識の向上

◇改善・一層充実していきたい事項

- ・危機管理マニュアルの周知徹底
- ・家庭学習(宿題以外)の自主的な取り組みの指導
- ・児童の道徳性のさらなる育成と「特別の教科 道徳」の趣旨を生かした授業の取り組み
- ・児童が友達や教職員に、保護者が教職員に何でも相談できる体制

## II 協議された主な内容

○学校教育目標に関して・学校経営について

(学校関係者から)

- ・「すべての子どもの笑顔のために」という学校長の経営方針の下で全教職員が児童理解に基づいた教育実践をすることにより、目の前にいる子どもたちに自己肯定感が育まれ、確かな力がついてくるものと考えられる。

- ・PDCA サイクルを生かした教育活動は、よりよい成果が出る活動と思う。改善案にあるように全教職員の共通理解を大切に次へつながる実践ができるとよい。

#### ○学校運営について

- ・学校運営に教職員一人一人が参画している学校だということが分かった。学校は安全安心で生活できることが望ましいが、様々な危険を予測して訓練しておくことは大切である。協働しながら子どもの命を一番にこれからも継続してもらいたい。
- ・あいさつの子どもたちお意識が向上している。地域に出ているあいさつをする子どもが増えていると感じる。

#### ○学習指導について

- ・授業や行事を見て、どの学級も学年も落ち着いて楽しく学習していることが分かった。日々の積み重ねの成果と感じる。
- ・基礎基本の定着に加え、家庭学習の習慣化も有効であるので、保護者の負担を考慮しながら、連携しながら定着できると良い。
- ・外国語は子どもたちが興味を持って取り組める内容であり、家庭での自主学習の内容としてとても有効である。今後も推進してもらいたい。

#### ○生徒指導について

- ・虐待での痛ましい事件を受けて学校の事実把握の方法教育委員会、児童相談所や転入前の学校との連携を図りながら早期発見早期対応に努めていってもらいたい。
- ・子どもたちが家庭で役割を担うことは自己有用感の醸成につながる。学校としても家庭へ働きかけてもらいたい。

#### ○地位にとの連携について

- ・学校、保護者、地域玩味一体になって子どもたちを育てていくという観点からも、地域との連携協働は大切である。登下校の安全指導のボランティアの方が雨の日も風の日も子どもたちに優しく声をかけてくださる姿には感謝するばかりである。
- ・地域連携、開かれた学校作りの観点からも近隣の商店や米作農家の方との教育的交流は働くことの大変さや大切さ等を学ぶことができる良い機会である。

#### ○学校の特色に関して

- ・本校は明るく素直な児童が多い。学校行事等を見ても明るくいいき活動する子どもたちの姿が見て取れる。先日子どもに声をかけると「こんにちは」と笑顔で答えてくれた。かわいい子どもたちを地域で継続して見守っていきたい。

#### ○その他

- ・魅力ある学校作りは今までの学校や保護者及び地域の力が結集されたためと感じる。今後とも魅力ある、子どもを通わせたいと思わせる敷島南小学校であってほしい。
- ・今後とも学校長を中心に教育体制をよりしっかりと構築して、学校、保護者、地域全体で子どもたちを育ていける核となる学校の教育活動に期待をする。

## <学校関係者評価書>

### I 全体評価

- ◇ 教育活動の実践に対する評価は、良好な水準にある。
  - ・ 学校教育目標，教育課程に基づいた学習指導，生活指導等の学校運営が適切に計画的に実施されている。
  - ・ 基礎基本を重視した授業や個に配慮した少人数指導等きめ細かな学習指導が，推進されている。
  - ・ 本年度は校内研究は外国語活動に取り組んだが，それを中心に，小中学校9年間を見通した子どもたちの育成を図るための授業実践がなされている。
  - ・ あいさつや清掃活動は，無言清掃の取り組みが活きて，子どもたちの生活の中により習慣化されつつある。
  - ・ 本年度も子どもの心を育む読書活動，体験活動等の指導が保護者や地域との連携のもと適切に行われている。読書活動は，保護者，読み聞かせボランティアの方々により，全学年で読み聞かせが実施され，読書の楽しさ及び豊かな心を育む活動が子どもたちの中に一層定着をしている。
  - ・ 危機管理マニュアルを含む防犯防災教育，防災計画を子どもや地域の現状に応じたものへの転換を絶えず行い，子どもたちが「自分の命は自分で守る」力を身につけることを第一目標に，訓練の方法やケース等についても細分化して行うことで自分を守る能力をさらに高められるように今後も指導を推進していく。

### II 特徴

#### ◇教職員の自己評価より

前年自己評価と同様，全ての項目で肯定的な回答割合が高かった。前年に引き続き，学校教育目標，学校経営方針を意識した教育活動の実践は，高い水準にあるといえる。学校長を中心とした協力支援体制も確立され，各自の意見が尊重され，生かされる組織になってきている。危機管理マニュアルの徹底は改善傾向にある。より実態に即した行動ができるように研修の充実，当事者意識の向上を図り子どもの命をも守ることができる学校作りを図っていく。

#### ◇児童のアンケートより

ほとんどの質問項目で肯定的な回答が多い。静かで落ち着いた雰囲気の中で楽しい学校生活を送っている様子がうかがえる。一方で，主体的，対話的で深い学びのある授業づくりについては，さらなる努力が求められる。

生活面では，「もし困ったことがあったら，相談できる友だちや先生がいますか」等教師と児童の人間関係について，前年度よりも肯定的な回答が増えている。今

後も児童理解の基づいた指導支援を継続していく。

児童一人ひとりに目を向けたきめ細やかな相談体制，学級内での好ましい人間関係の構築を今後ともより実践していく必要がある。

◇保護者のアンケートより

前年に引き続き，ほとんどの質問項目で肯定的な回答が多く，学校への信頼がうかがえる。一方で，主体的，対話的で不可一学びのある授業づくりについては，さらなる工夫努力を求めていることがわかる。

生活面では，保護者としての義務や責任についてしっかりとした意識をもって学校と連携協働しながら尽力していきたいと考えている。

家庭学習については，やや前年度に比べ満足度を下げた。意義の見直しや取り組み方法の再構成を行い，向上を目指していく。

記載責任者 甲斐市立敷島南小学校 学校関係者評価委員 秋山佐和子